

命のビザ・杉原千畝夫妻顕彰会



「命のビザ」杉原千畝夫妻顕彰活動

目的

杉原御夫妻の人道主義を学び、国際感覚を養ってほしい

1940年7月、第2次世界大戦の前夜、ナチスドイツの迫害から逃れて来たポーランドやベラルーシの多くのユダヤ人難民が日本の「通過ビザ」を求めて、リトアニアのカウナスにあった日本領事館に集まった。対応したのが副領事の杉原千畝で、ビザ発給について本国の外務省に打診すると、返信は否定的なものだった。千畝は葛藤の末、「人命第一」とする人道の精神により職を賭してビザ発給することを決断した。この決断を支えたのが幸子夫人だった。当時、二人の間には小さな男の子3人がいた。2000余り発給されたビザにより救われた命は6000名にもおよび、後に「命のビザ」と言われるようになった。

今日でも民族迫害は世界各地で続いている。島国の日本でも政治的難民の扱いについて問題になっている。ポーダレス時代を迎え、ますます千畝夫妻が拠り処にした「人道の精神」が世界に尊敬される日本人になるためにも大切になっている。お二人の偉業を伝えて学び、幸子夫人の誕生地である沼津の誇りとしたい。



現状

杉原千畝の妻、幸子夫人が沼津出身ということを知らない

一般市民はもちろんマスコミ関係者でさえ「幸子夫人の誕生地が沼津であったことは初めて知った」という声があった。新聞や『広報ぬまづ』1月15日号で紹介されたが、お寺を訪れる人々、高校生、大学生に聞いてみると、「命のビザ」や幸子夫人の誕生地ことを聞いてみると認識されていないことが分かる。まだまだ一般市民、次代を担う世代に歴史的偉業が浸透していないというのが現状であり、顕彰活動を継続し発信し続けていくことが必要だと思う。



活動

杉原千畝記念講演会・一人芝居

・ 11月3日(文化の日) 杉原千畝記念講演会 会場: 千本プラザ 音楽ホール 入場料無料
講師: 前駐リトアニア特命全権大使 重枝豊英氏 演題: 杉原千畝とリトアニア、参加者: 150名

・ 11月29日(日) 一人芝居「6千人の命のビザ」 入場料@ 1000円
会場: 千本プラザ 音楽ホール 公演: ポカラの会 (名古屋市)、参加者: 180名



振り返り課題

今後の顕彰活動の展開へつなげることが出来た

働き盛りの子育て世代の中から顕彰活動の趣旨に共感して参加する人が出てきたことは次代へ歴史的記憶を継承する可能性が出て来た。

今後、沼津市、NPO法人杉原千畝命のビザ、関係大使館との連携のもと、千畝の誕生地とされる八百津町(岐阜県)、千畝の学びの地、名古屋市とも提携し、点から線へと展開し、「人道の道」ルートの実現をめざしたい。また、新型コロナ収束後には、「杉原サイバー」の子孫をはじめ海外からの観光客が立ち寄るスポットとなるよう努力したい。

